

合併協定調印式



会長 木暮 治一（渋川市長）

国、地方を通しての危機的財政状況や、急速に進展する少子高齢化、地方分権の推進等の受け皿として、地方財政基盤の強化等、地方自治体を取り巻く環境が厳しさを増す時、好むと好まざるとに関らず、市町村合併は避けて通れない問題としてとらえ、それぞれの市町村の事情がある中、協議が整い、合併協定の調印が行われました。地域の皆様に心から感謝申し上げます。

今日まで培われてきた信頼の絆を、より強く、協調と融和を基本に伝統を重んじ、恵まれた地域資源を活かし、個性と魅力、人情あふれる豊かな街として子々孫々に至るまで、全国に誇れる街の誕生を目指し邁進していく所存であります。

副会長 関口 俊二（伊香保町長）

赤城山、小野子山、子持山、そして榛名山の懷に抱かれた6市町村の新たな旅立ちの支度がいよいよ整いました。身支度のために多くの方々が、時間と知恵を提供していただきました事に感謝申し上げます。

自然は、春夏秋冬をいつもの様に繰り返してくれますが、人々の営みには多くの試練が待ち受けています。新生「渋川市」は、商業、工業、農業、林業、そして観光等に様々な顔をした集合体です。新市の未来は、住民皆様の知恵と情熱と勇気が必要です。

合併の歴史が記されたとき、融和が繁栄をもたらしてくれると信じております。



副会長 小野 利治（小野上村長）

この度12月12日、渋川地区市町村合併の調印が目出たく出来ました事を心よりお慶び申し上げます。

これにより6市町村が合併に向けて大きく前進出来ました。これは関係各位のご指導とご協力の賜ものと衷心より感謝をする次第であります。

現在の地方自治は国が進めている市町村合併に向けて進まざるを得ず時代の趨勢であると考えております。

これからは新しい渋川市建設に向け、小異をすてて大同に付くを基本に頑張る心算でありますので、今後とも関係皆様方のご指導とご協力をお願いする次第であります。

を迎えて

副会長 阿久津貞司（子持村長）

新市の名称も決まり、合併協議会での協議結果をまとめた「合併協定書」に6市町村議会の議長さん立会人のもと、無事調印式が終了できました。協定にいたるまでの2年7ヶ月、任意合併協議会、法定協議会において合併を行うための基本的事項等、様々な協議、議論を重ね、住民の皆様のご理解とご協力をいただき調印までこぎ着けた事に感謝申し上げます。県内でも6の自治体が手を携えるケースはめずらしいようです。新「渋川市」の誕生まで1年2ヶ月あまりですが、今後は実務協議をさらに進め、住民満足度の最大化を目指し、よりよい地域づくりのために努力してまいりますので、引き続きご指導ご協力をお願い申し上げます。



副会長 永井 良一（赤城村長）

私達のふる里は、赤城・榛名・子持・小野子の山間から湧き出ずる清流をはじめ、豊かな自然は悠久の歴史を刻みながら、地域文化を育み、人々の暮らしに恵を与えてきました。

そして今、ここに私達は新しい時代の扉を開き、お互いの力を結集して進むことを誓い合いました。それは、社会の構造や経済環境の変化に対応する新たな地域づくりを目指す市町村合併であります。

急速に進む少子・高齢化社会を迎え将来にわたって夢と希望が持てる地域社会の創造に向かって6市町村の意志が一つになったのであります。

これまで積み上げてきた相互の信頼を基に着実に前進していきましょう。

副会長 木村 榮一（北橋村長）

私は、村政執行にあたり五の心（痛みがわかる・思いやる・敬愛する・信じる・素直になる）を大事にしております。新渋川市構成市町村は、大変地域性豊かな地域であります。それゆえに、市町村合併は、小異を捨てて大同にというような表現もございますが、私は、常に小異を大事にしつつ大同につく、こうゆうふうな考えに基づいて、今まで議論をしてきたつもりであります。それゆえ、今後新市におきましても、このような考えで行政運営を是非お願いをしたいと考えております。

最後に新渋川市は市民の期待に必ず応えられると確信しております。

